

# 幼児教育アドバイザー ガイドブック

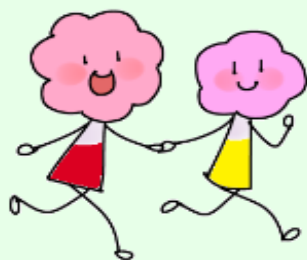
子どもの成長を願い、ともに学ぶ仲間と

実践を楽しむために

## 目次

- 1 はじめに
- 2 幼児教育アドバイザーセルフチェックシート
- 3 幼児教育アドバイザーの役割
- 4 幼児教育アドバイザー・園所の声

＜参考＞・「幼児理解に基づいた評価」の紹介  
・研修紹介



大阪府幼児教育センター



# 1 はじめに

- ・ 幼児教育アドバイザーとして、何をすればいいの？
- ・ 他園所の幼児教育アドバイザーは、どんなことをしているの？



これから実践を行う  
幼児教育アドバイザー

## 幼児教育アドバイザーとは？

「大阪府が幼児教育アドバイザー育成研修の受講により認定し、幼児教育の専門的な知見や豊富な実践経験を有し、域内の幼児教育施設を巡回、教育内容や指導方法、環境の改善などについて指導を行う者」と『幼児教育推進指針』（大阪府・大阪府教育委員会 平成31年4月）にあります。

「研究保育を通して悩みや不安の整理はできても、それを解決するための糸口が見いだせない」「自分の実践について振り返っているのですが、これで本当にいいのか。」等、日々の保育を実践していく中で、悩みは尽きないものです。子どもたちの主体的な学びにつながる保育の実現に向けて、日々努力されている保育者の味方となって、その支援にあたる人。それが幼児教育アドバイザーです。

幼児教育アドバイザーは、園内研修の一環として行われる研究保育やその後の研究協議の場で、保育者の発言を促すとともに、話し合いの雰囲気や状況をファシリテートし、研究協議が有意義なものとなるよう支援します。（園内研修のすすめ方 vol.1）

令和元年10月から幼児教育が無償化されるなど、幼児教育への期待がますます高まっています。日々、保育・教育の質の向上をめざして努力しておられる幼児教育アドバイザーの皆さんの取組みの一助になればと思い、このガイドブックを作成しました。このガイドブックを活用いただき、園内研修の企画立案、人材育成などを幼児教育のリーダーとして実践するとともに、他園所や小学校などをはじめとした地域とも連携しながら、園所、地域の実情に応じた取組みをお願いします。幼児教育アドバイザー同士の交流が広がり、大阪府全体で一丸となって、幼児教育の推進が図られることを願っています。

### 幼児教育アドバイザー育成研修

園所や市町村の中核となって研修を実施するためのファシリテーション能力や、新規採用者等経験の少ない教職員への指導助言など、幼児教育の推進に貢献できる専門的資質・能力の向上が目的。

全9回  
受講

認定

### 幼児教育アドバイザー

#### <役割>

- A 幼児教育のリーダーとして取り組む
- B 人材育成の一翼を担う
- C 公開保育で地域とつながる
- D 市町村等での研修や研究と協働する



実践経験豊富な  
幼児教育アドバイザー

子どもの成長を願い、ともに学ぶ  
仲間と実践を楽しみましょう！！

## 2 幼児教育 アドバイザー セルフチェックシート

・幼児教育アドバイザーとして、今できていることは？  
これから、何を学んでいけばいいかな？



これから実践を行う  
幼児教育アドバイザー

幼児教育アドバイザーとして研修等を実践する前に、今の自分を振り返りましょう！

### 実践する前のセルフチェックシート

チェック	 チェックがつかなかった項目は、右の資料（数字はページや章）をご参考ください。 ☆は、その資料全体を参照ください。紹介は一部です。	幼児教育 アドバイザーの ためのガイド ブック	幼児理解 に基づいた 評価（文部 科学省）	園内研修 のすすめ 方vol.1	園内研修 のすすめ 方vol.2	スタートカリ キュラム学 びの接続モ デルリーフ レット
幼児教育アド バイザーとし ての心構え	<input type="checkbox"/> 人権尊重の精神を大切にしている	☆	☆	☆	☆	☆
	<input type="checkbox"/> 学び続ける努力をしている	☆	☆	☆	☆	☆
	<input type="checkbox"/> 協働性を意識している	☆	☆	☆	☆	☆
	<input type="checkbox"/> ネットワークの構築をしている	☆	☆	☆	☆	☆
幼児教育のリ ーダーとして	<input type="checkbox"/> 「教育・保育目標」「育てたい子どもの姿」など教職員と共有している	1・2・6・7	第2章	1・4～7 18～20	4・18	
	<input type="checkbox"/> 園所の強み・弱みを把握している	1・2・6・7	第2章	6・7	23・24	
人材育成の一 翼を担うため	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの教職員の強み・弱みを把握している	3・6・7	第1章			
	<input type="checkbox"/> 教職員間のコミュニケーションが円滑である	3・6・7	第2章			
公開保育で地域 とつながるため	<input type="checkbox"/> 関係機関（地域の幼稚園・保育所・認定こども園、小学校や児童福祉施設など）と連携している	4・6	第2章	16		1・2・ 5・6・7
	<input type="checkbox"/> 関係機関に園所だよりなどで情報発信している	4	第2章			
市町村等での 研修や研究と 協働するため	<input type="checkbox"/> 幼児期の教育のセンターとして、施設や機能を開放している	5		15		
	<input type="checkbox"/> 幼児教育について高い専門性を持っている	☆	☆	☆	☆	☆
	<input type="checkbox"/> ファシリテーションの意義と役割を理解している	5・6・7				
ファシリテー ターとして	<input type="checkbox"/> 安心感ある雰囲気づくりができています（オープンエンドの質問・オープンマインド）	3・6・7	☆		21	
	<input type="checkbox"/> 参加者全員が発言している（学習者主体）	☆	第2章	12・13	4	
	<input type="checkbox"/> 到達目標が明示されている	☆	第1章	6・7・12	13	
	<input type="checkbox"/> 意見を出しやすいツール（付箋・ホワイトボード等）を使用している	1・2・6・7		2	13～16 19・22	
	<input type="checkbox"/> タイムマネジメントをしている（開始・終了時刻の明示）	1・2・6・7			22	
	<input type="checkbox"/> 参加者の意見を最後まで聞いている（傾聴・承認・共感の姿勢）	☆	第2章		21	
	<input type="checkbox"/> 議論の過程の記録を残している	1・2・6・7			12・14 ・18・19	

上記を参考に、自分の強みをいかして、園所の実態に応じて、実践しましょう。



実践経験豊富な  
幼児教育アドバイザー

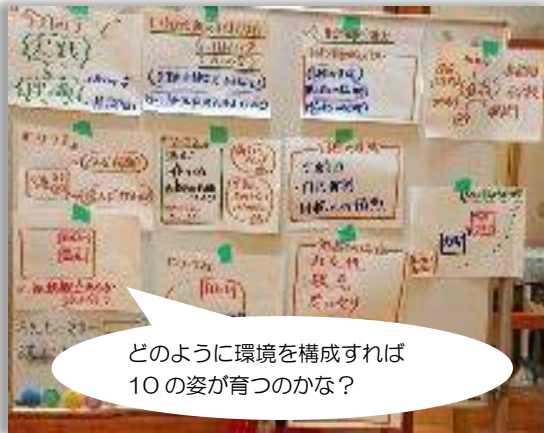
### 3 幼児教育 アドバイザー の役割

幼児教育のリーダーとして  
何に取り組めばいいの？



#### A 幼児教育のリーダーとして取り組む

- ・リーダーとして、園所内研修を企画・立案する。
- ・カリキュラム・マネジメントを進めていく中で、PDCAサイクルの機能を活性化させていく研修を実践する。
- ・教職員で子ども理解を深め合い、めざす子ども像を共有し合い、どのような手だてが必要か、教職員同士のつながりを大切に進める。



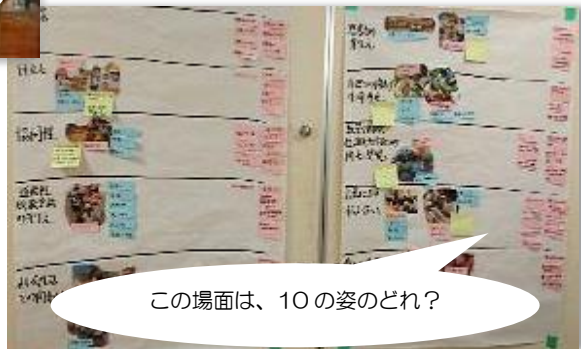
どのように環境を構成すれば  
10の姿が育つのかな？

読みましょう！

日々の保育実践で、「なかなか思うようにいかない」「本当にこれでいいのか」「どんな風に子どもに言葉かけをすればいいのか」と、不安になることもあるでしょう。実は、そんな瞬間が、保育者の保育カステップアップのとても大切なタイミングとなります。  
(園内研修のすすめ方 vol.1 より)

読みましょう！

実践事例 ☆研修テーマ  
「子どものつぶやきを読み取り、保育者の次の手だてを考えよう！」  
(園内研修のすすめ方 vol.2 より)



この場面は、10の姿のどれ？

教職員に保育を振り返ってほしくて「泥だんご遊び」をテーマに企画しました。自分の意見を10の姿を踏まえて伝えることができる教職員が増え、今後に期待しています。



園内研修を実践した  
幼児教育アドバイザー



園内研修を見学した  
幼児教育アドバイザー

普段の研修では、自分の意見を伝えるだけになることが多いですが、テーマ（10の姿等）を決めて、付箋を使って意見を出し合う進め方は、わかりやすく、参加者全員が意見を出すことができるので、勉強になりました。

#### 重要 Point

幼児の具体的な姿から幼児理解を深め、保育の質を高めていくためには、教職員がともに学び合うことが重要です。

幼児の姿をより深くとらえるには、様々な保育や保育観に触れることが重要です。記録や資料などを活用し、様々な保育の中に見られた幼児の姿を通して、自分の幼児に対する見方を広げていくことが大切です。(幼児理解に基づいた評価 第2章より)



読みましょう！

実践事例

「事実を適切に解釈する園内研修  
～リフレーミング～」  
(園内研修のすすめ方 vol.2 より)

\*リフレーミング…物事を今とは違った角度でとらえること

あの子のあの行動は、  
こういう理由かな。



明日の環境構成はこうしたら  
いいんじゃない？

読みましょう！

実践事例

「事実をたくさん集める園内研修  
～マインドマップの活用～」  
(園内研修のすすめ方 vol.2 より)

\*マインドマップ…キーワードやイメージを中央に  
そこから放射線状にキーワード  
やイメージを広げ、つなげていく

テーマを決め、研修を実施することで、全教職員と情報共有を図ることができました。全教職員で同じ方向へ向けて保育を進めているので、団結力が強くなったように感じます。



園内研修を実践した  
幼児教育アドバイザー



園内研修を見学した  
幼児教育アドバイザー

園の特性とは何かをそれぞれの教職員が理解した上で、課題解決のためどうしていくのかを今まで大切にしてきたことを生かしながら、活発に意見を交わされていて、雰囲気づくりや進め方等、とても勉強になりました。

重要 Point

教職員が互いに支え合い、学び合って、教職員としての専門性を磨いていくためには、教職員一人ひとりのよさが引き出され課題が共有されるような園の雰囲気をつくっていくことが大切です。

事例検討会やカリキュラムの検討会などの園内研修を定期的実施することを通して、教職員がもつ幼児を理解する力や実践力を高めていくことが求められています。

(幼児理解に基づいた評価 第2章より)



リーダーとして、教職員とともに「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「非認知的能力」をはぐくむ実践場面を、園内研修を通して、教職員が意識できるように仕掛けていきましょう。

参照

「園内研修のすすめ方 vol.1」

園内研修の企画・立案の仕方、進め方等について、順を追って記載しています。

「園内研修のすすめ方 vol.2」 園内研修の実践事例

「園内研修をこども園でどう進めるのか」「園内研修のマネジメント～ともに学び ともに育つ～」も掲載しています。

### 3 幼児教育 アドバイザー の役割

人材育成のために  
何をすればいいの？



## B 人材育成の一翼を担う

- 園所の経験年数の少ない教職員をサポートする。
- 園所内の雰囲気づくりをする。



活用！

人材育成における  
コーチングマインド  
「問題の解決策や答えは、  
すべてその人の中にある」  
(適切な支援を行うことによ  
って、相手のやる気や  
能力、可能性を引き出し  
ていこうという考え方)  
(「メンタリング・ハンドブック」より)

この時の声掛けが良かったよ。

どうしたらうまくいったかな。

活用！

Q. 一人ひとりの子どもを大切にする学級をつくりたい。  
A1. あなたの学級にはどんな子どもたちがいるでしょう。  
(「教職員人権研修ハンドブック」より)



経験年数の少ない教職員の言葉を受け入れながら、振り返りや助言をされてい  
て、参考にしたいなと思いました。いきいきと話をする教職員が多く、普段か  
らの職場環境づくりの参考にしたいです。

#### 重要 Point

経験年数の少ない教職員の存在によって、園の雰囲気明るくなり、活気が出てくる場合があります。指導  
に当たっては、その教職員が今抱えている問題を取りあげ、実際の場面を通して具体的な手立てを一緒に考  
え、明日への保育に生かせるようにしましょう。(「新しい先生とともに」より)



「メンタリング」の手法を取り入れたり、「教  
職員人権研修ハンドブック」を活用したりし  
て、新規採用者や経験年数の少ない教職員の育  
成、支援を行いましょ。

#### 園内研修のすすめ方

Vol.2  
- 子どもの姿を中心とした園内研修 -



大阪府域すべての幼稚園・保育所(園)・認定こども園で園内研修の文化を育む  
大阪府幼児教育センター

参  
照

「園内研修のすすめ方 vol.1」…指導案検討について記載しています。

「園内研修のすすめ方 vol.2」…園内研修の実践事例を記載しています。

「新規採用教員研修の手引き」…幼稚園教員の役割等を記載しています。

「メンタリング・ハンドブック」…メンタリングについて詳しく解説しています。

「教職員人権研修ハンドブック」…一人ひとりの人権が尊重された学級づく  
りを記載しています。

「新しい先生とともに」(文部科学省 平成 16 年 3 月)

### 3 幼児教育 アドバイザー の役割

地域とつながるとは？  
公開保育ってどうすればいいの？



#### C 公開保育で地域とつながる

- 近隣の学校園所によびかけて、公開保育を実施する。
- 公開保育を実施するための事前準備をする。
- 子どもの姿を通じた事例検討会を通して、近隣の幼稚園教諭・保育士・保育教諭とのつながりをつくる。



自園ではこんな取組みをしています。

自園でもやってみよう！

活用！

#### 研究保育 観点シート

研究保育 観点シートの例

目標		月 日( ) 参観者
0000.....	0000.....	
観点	コメント	
1	保育のねらいと設定理由	
2	おふくに対する環境構成	
3	教師・用具に対する工夫及び配慮	
4	子どもへの声掛け	
5	遊び進みの進め方	
6	支援を要する子どもへの手立て	

(「園内研修のすすめ方 vol.1」より)

自園の保護者や他市の幼児教育アドバイザーの方々を加え、昨年以上に参加者の多い公開保育となりました。教職員は自ら聞きたいこと確かめたいことを「問い」にし、様々な立場の方から貴重な意見・感想など多くの学びを得たようです。



#### 重要 Point

保育を見合うことも、幼児理解を深めるために取り入れたい方法です。他の教職員や他園の実践の特徴やよさに気づいたり、幼児の姿をじっくりと観察し、ある行動の幼児にとっての意味や環境の構成の意味に気付いたりすることができます。保育を公開する側も、参観する側も、互いによりよい保育に向かう姿勢で取り組むことが大切です。(幼児理解に基づいた評価 第2章より)



公開保育を通して、近隣の幼稚園教諭・保育士・保育教諭、小・中学校教諭等とのつながりをつくりましょう。

参照

#### 「園内研修のすすめ方 vol.1」

研究保育の実施、園外研修の活用について記載しています。



### 3 幼児教育 アドバイザー の役割

協働ってどうすればいいの？



#### D 市町村等での研修や研究と協働する

- ・市町村・市町村教育委員会の研修会や幼児教育に関する研究会などに参画・協力する。
- ・幼児教育の専門性を生かして、テーマに沿った講義、報告等を行う。

読みましょう！

小学校第1学年は  
ゼロからのスタート？

小学校に就学する子どもたちは、幼稚園・保育所・認定こども園・家庭などでの様々な体験や学習を経験しています。小学校教育を幼児教育からの延長と考えると、子どもたちの成長をのばしていきましょう。

(「スタートカリキュラム 学びの接続  
モデルリーフレット」より)



小学校への就学に向け、  
自園では〇〇しています。



中学校区での合同研修。  
小・中学校の先生に幼児の姿を伝えます。



幼稚園と保育所の交流ができてよかった。小学校へ向けて同じように育てていくことが大事だと改めて感じた。自分自身の学びにもつながった。

#### 重要 Point

地域の幼児教育アドバイザーを園内研修に招き、園外にいる立場から、その幼稚園の幼児の見方や保育の考え方についての意見をもらうことは、改めて広い視野から当該幼稚園の特色や課題等に気づくこととなります。

「幼稚園教育から小学校教育へつなぐ」という大きな役割があります。日頃からの情報交換の機会をもつことが必要です。組織の規模や職員の構成、行事等を勘案して、研修会や保育参観・授業参観の持ち方を創意工夫し、充実させることが必要です。(幼児理解に基づいた評価 第2章より)



市町村等と協働することで、地域の幼児教育を推進していきましょう。

参照

「スタートカリキュラム 学びの接続 モデルリーフレット」  
幼児教育の観点からスタートカリキュラムの重要性を伝えています。





## 4 幼児教育 アドバイザー・ 園所の声



### 幼児教育アドバイザーの声



やってよかった！

見学に行ってよかった！

#### 幼児教育アドバイザーの声 公開園内研修を**実践**して

- ・園内研修で議論したことを、日頃の保育に返していくことができた。（公立幼稚園）
- ・教職員が活発に意見を出してくれたおかげで、有意義な園内研修になった。（私立幼稚園）
- ・教職員間で話をする機会が増え、人間関係が深まった。（公立保育所）
- ・たくさんの方に参加いただき意見をもらえたことで、研修がさらに深まった。（公立こども園）



#### 幼児教育アドバイザーの声 公開園内研修に**参加**して

- ・短時間でポイントを絞ることの大切さを学ぶとともに、働き方改革にもつながると感じました。園内研修の実践に生かしていきたい。（私立こども園）
- ・研修に参加した教職員が「明日はこうやってみよう！」と前向きに思えるアドバイスには、どんなものがあるか考えるきっかけになった。（公立保育所）
- ・保育の様子を写真やビデオに撮り、研修の振り返りでその写真やビデオを活用して子どもの姿を共有することで保育を参観できなかった教職員にも主体的に参加してもらうことができることがわかり、自園にも取り入れてみたい。（私立保育所）



- ・研修といえば構えてしまうこともありますが、もっと気楽に進めていけるような環境づくりが必要だなと感じた。（公立保育所）
- ・会議や研修の内容や進め方はもちろんだが、日頃からの教職員の関わりやコミュニケーションが大切だと改めて感じたので、自分の職場でも意識していきたい。（私立幼稚園）

- ・公開保育や園内研修を通して取組みを発信することで、保育者の思いや様々な意見を聞けることが楽しみと感じておられた。自園でも研修を「楽しみ」と思える教職員集団をつくっていきたい。（公立こども園）
- ・幼稚園と保育所の交流ができてよかった。小学校へ向けて同じように育てていくことが大事だと改めて感じた。自分自身の学びにもつながった。（公立幼稚園）



- ・園内研修では、研究保育・研究討議としていくことが多かったが、テーマを設定し、教職員間の共通理解と資質向上につながることがわかった。研修のすすめ方のスキル、アイデア、多様な考え方が必要で、アドバイザーとしての求められる役割がわかった。市内だけでなく、地域の公立の就学前施設、学校が交流し合い、学びを深めていくことがこれからの幼児教育・教育の発展につながっていくと感じた。（公立幼稚園）



実践するには勇気が必要ですが、研修に参加する教職員にとっても、実践した幼児教育アドバイザーにとっても学びが多くあります。他園の実践を見学し、自園の実践に生かしましょう。

研修の工夫

雰囲気づくり

つながり

資質向上  
幼児教育の発展

幼児教育アドバイザーに任せてよかった!!



## 園所長からのアンケート

令和元年9月末～10月、幼児教育アドバイザーの在籍する園所長を対象にした「幼児教育アドバイザーが認定されたことによる園の変化等」についてのアンケート結果を紹介します。

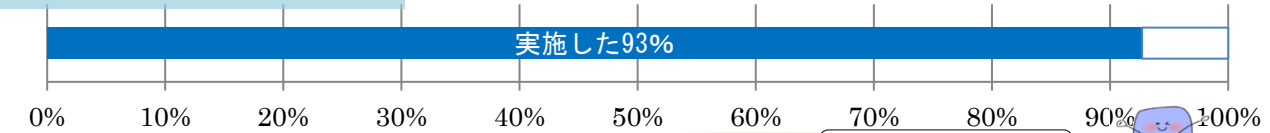
(回答数 192 園)

園内研修の実施によって、何が変わるの？



### 1 園所内研修の実施

Q.今年度、園所内研修を実施しましたか（予定を含む）。



ほとんどの園所が、園所内研修を実施しています。

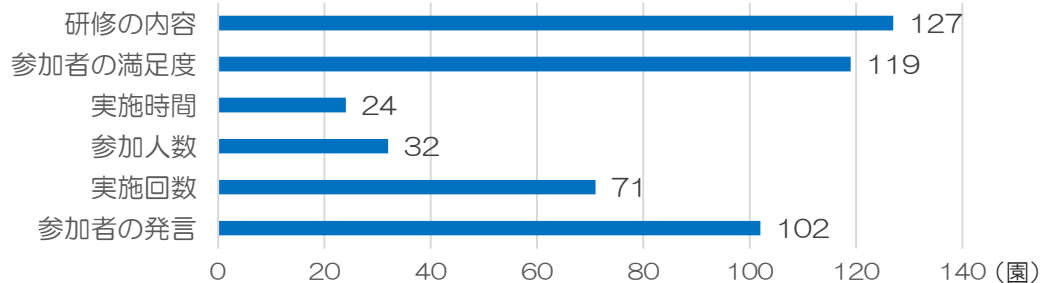
93%の実施率



### 2 研修の充実

Q. 幼児教育アドバイザーが認定されてから、園所内研修に変容はありましたか。

園内研修の  
充実度 UP!

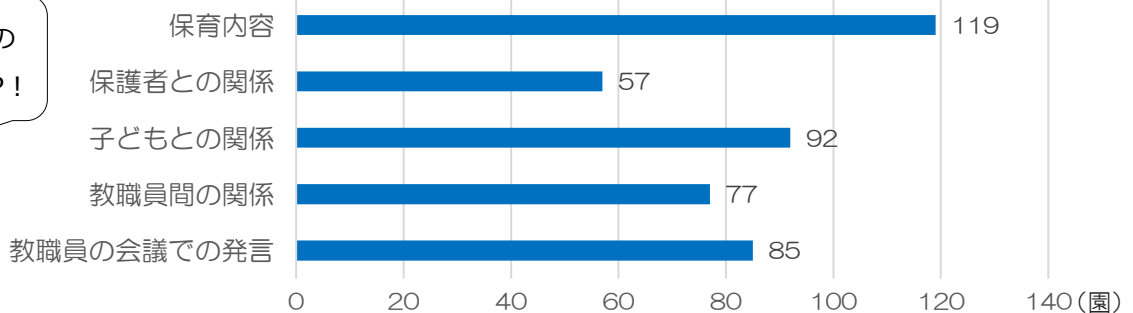


「教職員が参加し、意見交換する研修を増やした」などの意見が多くありました。特に、園内研修の内容、参加者の満足度、参加者の発言において充実度が高まったようです。

### 3 園所内の充実

Q. 幼児教育アドバイザーが認定されてから、園所内に変容はありましたか。

保育内容の  
充実度 UP!



保育内容が充実したと感じる園が多い。  
(記述コメントより)

- 研修を受けたことにより、園内研修で議論したことを日頃の保育に返していくことができた。
- 教育課程を見直すことにつながった。

幼児教育アドバイザーの活躍や園内研修の実施により、園所内研修や保育内容の充実度がUPしています。まずは、できることから実践してみましょう！



園内研修の機会を設けることで、「次はこれをしよう」という話になり、定期的に取り組むことができました。定期的に行うことで、より各学級の様子や教職員の気持ちを知ることができたこと、計画的に進めることができるようになりました。



## <参考>

# 「幼児理解に基づいた評価」の紹介

この冊子は、教職員の日々の幼児との関わりや保育していくための参考となります。幼児教育アドバイザーの方が園内研修のファシリテートや助言などをする際にぜひ、活用してください。



文部科学省著作 教師用資料

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/07121724/\\_icsFiles/afieldfile/2019/05/15/1296261\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/07121724/_icsFiles/afieldfile/2019/05/15/1296261_1.pdf)

本資料は主に幼稚園の教師を対象としていますが、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても「園児の理解に基づいた評価の実施」は同様に示されており、幼保連携型認定こども園の保育教諭等においても、特に満3歳以上の園児の教育及び保育を充実させていく上で、ご参考にしていただけるものと考えています。また、保育所においても本資料を適宜ご活用いただきたいと思います。（「幼児理解に基づいた評価」【本資料の主な対象者】より）

- ※ 以下の文章につきましては、「幼児理解に基づいた評価」より引用しており、掲載ページを記しています。
- ※ 下線は、ポイントとなる部分です。（府によるもの）

本資料は、幼稚園の教師が一人一人の幼児を理解し、適切な評価に基づいて保育を改善していくための基本的な考え方や方法などについて解説したものです。（【本資料の主な対象者】より）

## 第1章 幼児理解に基づいた評価の意義

### 1. 幼児理解に基づいた評価の意義

#### (3) 幼児を理解し、保育を評価するとは

##### ○幼児を理解するとは

一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えなどを理解しかつ受け止め、その幼児のよさや可能性を理解しようとすることをさしているのです。（P9）

##### ○保育における評価とは

保育の中で幼児の姿がどのように変容しているかを捉えながら、そのような姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうかを検討して、保育をよりよいものに改善するための手掛かりを求めることが評価なのです。（P10）



文部科学省 「幼稚園教育パンフレット」より

### 2. よりよい保育をつくり出すために

幼児を理解し保育を展開するためには、どのような視点から何を捉えることが必要かについて、基本的に押さえておきたいことの中から五つを取り上げています。（P14）

- (1) 幼児を肯定的に見る (P14)
- (2) 活動の意味を理解する (P18)
- (3) 発達する姿を捉える (P21)
- (4) 集団と個の関係を捉える (P24)
- (5) 保育を振り返り見直す (P26)



#### P19 <事例：s児とr児の積み木遊びから>

保育室の中型積み木を並べていたs児。そこへ「僕もやりたい」と頼むr児。s児の返事は「だめ」。しばらくs児の周りをうろうろしていたが…。s児とr児の活動の意味とは？

## 第2章 幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方

### 1. 保育における幼児理解と評価

#### (2) 幼児理解に基づいた評価の実施

##### ② 保育の展開と記録

幼児は発達特性から、自分の気持ちや考えなどを十分に言葉で表現することができない場合があります。

そのため、幼児の行動を「記録」することを通して、幼児理解を深めていくことが一層重要になります。

さらに、保育をよりよいものにするためには、実際の活動の場面を設定したねらいや内容を基に分析して、次の指導計画作成の際のねらいや内容の設定に生かしていくことが必要です。

幼児の姿は、教師との関わりの下に現れている姿である以上、教師は幼児だけでなく、教師自身の考えていたことや関わり方などについても記録する必要があります。（P44）

##### ③ 保育の多面的な理解

##### ○ 様々な学び合いの場を活用する

**園内研修**においては、具体的な幼児の姿や遊び、環境などが共有しやすく、より細かな幼児の心の動き、活動内容や関係性の変化などを取り上げ、今後の保育のねらいを語り合ったり、現在の保育の課題を共通理解したりすることが重要になるでしょう。

一人一人の教師が受け身にならず、積極的に対話しながら考えや見方を交流できているか、常に教師同士の関係性や研修の雰囲気や語られている内容、研修方法を捉え直し、具体的な方法の改善を行っていくことが求められます。（P52）

**園外研修**では、普段当たり前だと思っている自分の保育観や自園の保育理念が、他との比較によってより鮮明に意識化されます。日頃の実践と比較しながら、他の実践の意味を問い、考えることが重要になります。

園内の教師同士で学び合うだけでなく、保育を公開したり、研究者など、第三者と共に保育の記録を解釈し合ったり、発達支援や医療的立場の専門家を招いて個別ケースの検討を行ったりすることも大切です。さらに、自治体によっては、幼児教育アドバイザー等の名称で、園を訪問し助言する者が配置されていることがあり、そうした者と協力して実施することも考えられます。（P53）



文部科学省 「幼稚園教育パンフレット」より

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/1422302.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1422302.htm)



#### P59 <事例：園生活に慣れていくまで>

a 児は、3歳児から進級してきた学級に4歳児から入園してきました。園生活が不安で、担任のB教師から離れられません。そこで、隣の学級のC教師に相談すると…。担任では気付きにくいことに気付くためには？

### (3) 妥当性や信頼性を高めるための工夫

保育の記録を基に教師自身の幼児との関わりを振り返りつつ、常に教師自身の保育を省察する必要があります。(P59)  
事例検討会やカリキュラムの検討会などの園内研修を定期的実施することを通して、各教師がもつ幼児を理解する力や実践力を高めていくことが求められています。(P61)  
必要に応じて、地域の幼児教育アドバイザーなどを園内研修に招き、園外にいる立場から、その幼稚園の幼児の見方や保育の考え方についての意見をもらうことは、改めて広い視野から当該幼稚園の特色や課題等に気付くことになります。(P61)

## 3. 日常の保育と幼稚園幼児指導要録

毎日の保育は、幼児の生活する姿からその幼児のどこが育っているのか、伸びようとする面はどこか、何に興味をもっているかなどを捉え続けながらつくり出していきます。「指導に関する記録」は、次の年度にもその幼児の特性を踏まえた適切な指導が受けられるように、一年間の指導の過程の中で捉え続けた幼児の発達する姿を振り返ってまとめ直し、その幼児らしさや可能性を捉えるという観点から分かりやすく記入する必要があります。(P75)



#### P78 <事例：エピソードから s 児の発達の特徴を捉える>

M 教師は、保育の中で心に残ったエピソードを記録に残している。次のような順序で、日常の保育の記録を指導要録の記入に役立てている。

ア 日常の記録を日付を追って、順に並べてみる。

イ いつ頃、どのような生活する姿が見られたか。変容や特徴を捉え直してみる。

ウ 変容や特徴の背景にある教師の指導や周囲の状況を振り返ってみる。

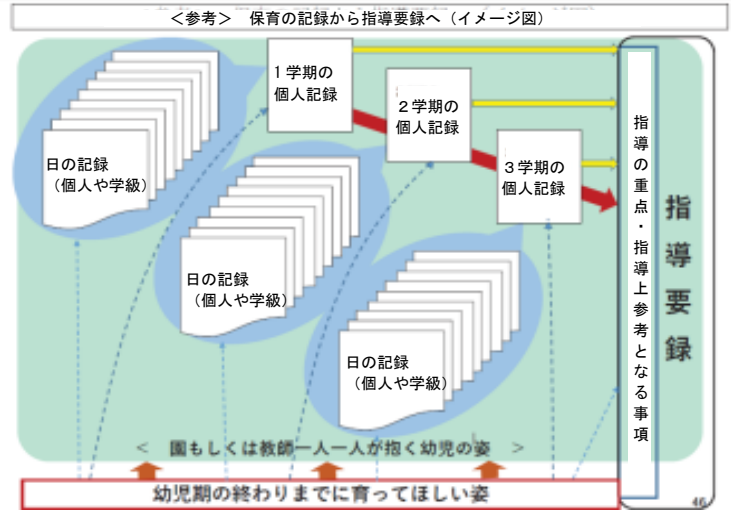
## 第3章 幼児理解に基づいた評価の実践事例 掲載している事例一覧(P90)

事例タイトル	事例の内容
事例 1 保育を見直し、次の日の保育をつくり出す	A 教師（4 歳児担任）が日案に残した記録を手掛かりに、次の日の保育をつくり出す過程を取り上げた事例
事例 2 記録や話し合いを生かす	B 教師（4 歳児担任）が保育の中で気になっている進級児 i 児に対する見方を、記録や他の教師との話し合いを通して変えていった事例
事例 3 動画を活用して話し合いを深める	動画を活用した園内研修での話し合いを通じて、C 教師（4 歳児担任）が、保育中の幼児への関わり方や幼児の姿などに気付き、その後の保育に生かしていった事例
事例 4 教師自身の関わりに気付く	3 歳児を受けもって幼児とのすれ違いに悩んでいる 1 年目の D 教師が、周りの教師の援助により自分の関わり方の問題点に気付いて次第に変容していった過程を紹介している事例
事例 5 よさや持ち味に触れる	3 年保育 5 歳児を担当している E 教師が、j 児の個性に触れ、持ち味を捉えられるようになっていくまでの事例
事例 6 保育の記録から指導要録へ（4 歳児）	預かり保育を利用している b 児について、F 教師（4 歳児担任）が日常の保育の記録を基に指導要録の記入内容を考えていく過程を取り上げた事例
事例 7 保育の記録から指導要録へ（5 歳児）	5 歳児担任の G 教師が、積み重ねた記録を基に、a 児の発達する姿を長い目で捉える機会をもち、指導要録の記入内容を考えていく過程を取り上げた事例

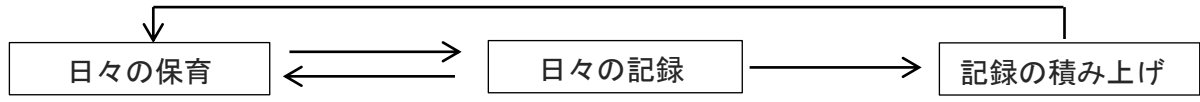
【事例6から読み取れること】(P129)

《日々の記録から指導要録へ》

日々の記録を基にして、指導要録に記入する内容をまとめていくには、いろいろな方法があると思います。日々の保育とその記録という巡りの中で捉えて記録を積み重ね、一年の保育を振り返って一人ひとりの幼児の発達してきた道筋と、そこへの幼児を取り巻く教師の関わりや次年度への指導の手掛かりを整理してまとめてみるのが指導要録への記入といえるでしょう。



令和元年度 幼児教育指導者養成研修 資料より



- ・ 幼児の表情や動き、言葉を丁寧に捉える。
- ・ 問題視しないで見る。
- ・ 登園～降園までの一日の流れの中で捉える。
- ・ 教師の見方や願いも捉える。
- ・ その幼児の気持ちを捉える。
- ・ 友達関係を捉える。
- ・ 状況や教師の関わりと関連付けて捉える。
- ・ 生活する姿の変化を長い目で捉える。
- ・ 持ち味やよさを捉える。
- ・ 園内の他の教師の見方も取り入れる。
- ・ 領域の「ねらい（発達を捉える視点）」から捉える。

指導要録

文部科学省 「幼稚園教育パンフレット」より



幼児期は何より楽しさを求めて活動を行う時期です。

「評価」という語は、優劣を決めるなど、ランクを付けたりする成績表のようなイメージで受け止められることがあります。しかし、教育を行うために評価は欠くことのできないものです。適切な教育は、適切な評価によって初めて実現できるものです。

幼稚園教育要領解説では、「評価は幼児の発達の理解と教師の指導の改善という両面から行うことが大切である」と示しています。教師が指導の過程を振り返りながら幼児の理解を深め、幼児一人ひとりのよさや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしましょう。

日々の保育と評価は常に一体になっているものであり、ごく日常的なものです。よりよい保育をめざし、複数の教職員で日々の記録等を共有しながら多面的に幼児を捉えることにより、保育・教育の質の向上をめざしましょう。

幼児教育アドバイザーとして、研修のファシリテートをしようと思うけど、いきなりできるかな？



認定された幼児教育アドバイザーが、自信をもって園内研修の実践ができるように

**幼児教育アドバイザーフォローアップ研修**を実施しています！

## 幼児教育アドバイザーフォローアップ研修(集合型)

### リーダーシップ支援

ハラスメント防止/コミュニケーション能力の強化



教職員のメンタルマネジメントについて学び、指導助言やコミュニケーション能力の向上を図ります。

### 研修支援 A

ファシリテーターの意義と役割 (理論)



ファシリテーションの基礎的な理論を学び、研究協議の方法やファシリテーション能力の向上を図ります。

### 研修支援 C

ファシリテーターの意義と役割 (応用編1)



新規採用教員研修に参加し、他の参加者との交流を通して、自律的に自らの課題と向き合えるようなファシリテーションの在り方を実践的に学び、研究協議の方法やファシリテーション能力の向上を図ります。

### 研修支援 D

ファシリテーターの意義と役割 (応用編2)



## 幼児教育アドバイザーフォローアップ研修(実践型)



市町村等の計画により、幼児教育アドバイザーが活躍する公開の園内研修の実践をお願いしています。その計画を近隣の幼児教育アドバイザーに情報提供し、その園内研修を見学することによって、幼児教育アドバイザー自身の実践の参考にしたり、アドバイザー同士の交流・つながりを広げたりすることで、ファシリテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図ります。

# 研修一覽

大阪府幼児教育センターって、どんな研修をしているの？



求められる資質・能力										令和元年度 研修一覽			受講対象						
教職の 素養	人権	保育力	安全 健康	メン タル	接・運 携	担 当 課	研修名	回/年	備考	公 幼	公 こ	公 保	私 幼	私 こ	私 保	そ の 他			
☆	☆		☆	☆	☆	大阪府教育センター	園長等専門研修	2	受講対象は、園所長(主任等含む)	○	○	○	○	○	○	○			
☆	☆	☆		☆	☆		幼児教育アドバイザー育成研修	9	受講対象は、教職経験3年以上	○	○	○	○	○	○	○	○		
☆		☆		☆	☆		幼児教育アドバイザーフォローアップ研修	5	受講対象は、認定された幼児教育アドバイザー	○	○	○	○	○	○	○	○		
☆		☆					保育技術専門研修	各1	A		○	○	○	○	○	○	○		
☆		☆							B		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆		☆	☆						C		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆		☆	☆						D		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆		☆	☆						E		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆	☆	☆							F		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆		☆	☆						G		○	○	○	○	○	○	○	○	
☆	☆	☆	☆				幼稚園新規採用教員研修	8		○	○		○	○					
☆	☆	☆	☆	☆	☆		幼稚園10年経験者研修	6		○	○								
☆			☆	☆	☆		幼児教育推進フォーラム	2		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆	☆				☆		就学前人権教育研究協議会	3		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆	☆						出会いから学ぶ人権学習	3		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆	☆						障がい理解・啓発推進研修	1		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆	☆		☆				支援教育実践研修	6		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆	☆		☆	☆			支援教育コーディネーター研修	4		○	○	○	○	○	○	○	○		
			☆				応急手当研修	2		○	○	○	○	○	○	○	○		
☆		☆					私学課	私立幼稚園新規採用教員研修	2					○	○				
☆		☆			☆			個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成に関する研修	1	地域ブロックを分けて2回実施				○	○				
		☆	☆				子育て支援課	事故防止研修	第1部	1		○	○		○	○	○	○	
		☆	☆	☆					第2部	1		○	○		○	○	○	○	
		☆	☆			第3部			3		○	○		○	○	○	○		
	☆	☆			☆	障がい児保育研修		1			○	○		○	○	○	○		
	☆	☆	☆		☆	幼保連携型認定こども園教育・保育要領研修		1			○	○		○	○	○	○		
		☆	☆			認可外保育施設職員研修		1	受講対象は認可外保育施設担当者等								○		
		☆	☆	☆		企業主導型施設管理者研修		2	受講対象は企業主導型保育施設管理者等								○		
		☆	☆			企業主導型保育従事者研修	2	受講対象は企業主導型保育施設保育従事者								○			



学び続けるみなさんを応援しています！  
子どもの成長を願い、ともに幼児教育の  
充実をめざしましょう！

発行日：令和2（2020）年2月19日

研修の  
最新情報



大阪府幼児教育センター（大阪府教育センター・小中学校課・私学課・子育て支援課）  
〒558-0011 大阪市住吉区苅田4丁目13番23号（大阪府教育センター内）  
TEL:06-6692-1882（代表）／FAX:06-6692-1923／URL: <http://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/>  
E-mail:kyoiku-center-youji@gbox.pref.osaka.lg.jp